

## 中国諸民族履きもの固有属性の検討 (4)

## —履きもの固有属性の細分化—

○下田敦子\* 大澤清二\* 笠井直美\*\* 近藤四郎\*<sup>3</sup>(\*大妻女大, \*\*新潟大, \*<sup>3</sup>京都大)

本研究は中国諸民族をそれら民族がもつ履きものによって計量的に分類し、中国に点在して居住する少数民族の履きもの文化の分布的特徴、文化伝播及び相対的位置などを検討する。前報(1998)では「履きもの固有属性」を利用してクラスター分析を行い、履きものもつ地域分布的特徴を明らかにし、併せて履きもの文化クラスターを構成した。固有属性の設定にあたっては、大丸(1991)を参考としたほか、1996年11月までに国立民族学博物館に収蔵された中国履きもの標本等及び、多数の文献を吟味検討した結果抽出した。以来この属性を用いて様々な角度からの数理分類学的分析を行ってきた。しかし民族をより体系的に分析するためには、分析概念としての履きもの固有属性がより細分化されることが必要であると考えた。そのため本研究では従来の属性構造は変えずに、形態、素材、縫合、装飾性等の側面からその履きものを特徴づける属性を綿密にかつ精緻に細分化することを試みた。なお、細分化するにあたっては宮本(1933)、近藤(1954)等の文献を参考とした他、1999年11月までに国立民族学博物館に収蔵された中国履きもの標本によってえらる知見をもとに枚挙した上でこれを系統的に配列した。